

専門家のアドバイスを希望する方は、以下の事項を記載しお送りください。

F A X : 03-6811-7206

E-mail : jimukyoku@jsurp.jp

①対象の地区

②まちづくりの内容

③相談したいこと

お名前

連絡先（電話番号・メールアドレス）

日本都市計画家協会は、まちづくりの専門家として、学識者、コンサルタント、自治体など、多様なメンバーにより構成される認定NPO団体です。全国のまちづくりの発展に寄与すべく、震災復興活動やまちづくりセミナー、出前講座など「公益性」の高い活動を展開しています。

活動の一環として、まちづくり相談を実施しています。お気軽に相談ください。

まちづくり相談ホームページ <https://www.jsurp.jp/まちづくり相談/>

E-mail jimukyoku@jsurp.jp



vol.1

まちなかの 活性化



地域主体のまちづくり

地域主体のまちづくりとは住民や企業、NPOなどが、自分のまちのために自主的に取り組むまちづくりです。

昨今、行政のみならず、自分たちの活動でさらに地域を良くしたいとまちづくりに取り組む地域が増えていきます。多くが住みやすい環境、地域コミュニティの継続、活気あるまちなど、“高み”を目指しています。

そのようなまちづくりに取り組む方々に活用してもらうことを願い「まちづくりNOTE」をつくりました。



街並みづくり (画/鈴木俊治)



歴史資産の活用



空き店舗を活用した新店舗の誘致



まちを盛り上げるイベント



まちなかの活性化

リビングのない家に住んだことはありますか？

まちなかはみんなが集まり憩う、いわばまちのリビングです。駅前などのまちの中心にあり、様々な活動やお祭りが行われ、交流が生まれる場。そして、まちのシンボルとなる場です。

郊外にショッピングセンターができ、まちなかに元気がなくなっている地域が少なくありません。一緒にまちなかを活性化し、居心地の良いまちのリビングをつくりませんか？

まちなかの活性化の視点

まちなかを活性化するには、どのような状態が理想でしょうか。

多くの人が集まり、ビジネスの発展、新しい文化の創造、若者の活躍など“チャンスがある”状態を目指したいもの。

そのためには、様々な人たちが多様な活動を行い、まちの重層性を生み出すことが重要です。さらに、自宅、職場・学校に次いで居心地がいい場所(サードプレイス)が“まちなか”になるよう、用事がなくても気軽に訪れたいくなる雰囲気演出していきます。

まちの重層性

- 買い物場所
- 祭り・イベント
- 勤める
- 学ぶ
- 遊ぶ
- 観光
- サークル活動
- 子育て
- くつろぐ

人が集まる環境をつくる

チャンスがあるまち

多くの人が集まることを活かして
様々なチャンスが生まれる



新しい文化の創造

観光活性化

若者の活動の拠点

祭り・イベントの盛り上がり

店舗の売り上げUP・新たなビジネス

取り組みのテーマ

それぞれのまちによって取り組むべきテーマは異なります。伸ばしたいところ、改善したいところを見極めてテーマを設定しましょう。

商店街の活性化



居心地のいい空間づくり、楽しいイベント

安全性の確保



バリアフリーや防犯など誰もが集まれる配慮

観光の魅力アップ



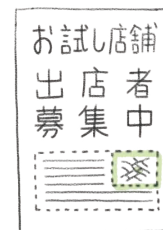
街並みづくり、観光ルート・お土産の開発

交通利便性の向上



バスの利用しやすさ、歩きやすい空間づくり

新店舗の誘致



空き店舗対策、テナント誘致、若手事業者の育成

交流拠点づくり



多様な活動を支える多目的交流拠点



さあ、まちづくりをはじめよう!

ステップごとの取り組みのポイント

まちの特徴をとらえ、まちに関わる人たちの関係性を把握しつつ実践していきます。



ステップ

1

まちの特性を把握する!

まず、まちなかについて知ることが重要です。秀でているところ、課題となるところを、まちづくりの担い手の皆さんや地域の皆さんがともに集まり、話し合ってみましょう。意見を表や図にまとめると分かりやすくなります。

POINT まちの特性を知りチームで共有するには、**まち歩き**が有効です。みんなで一緒にまちを歩きながら発見した特徴をそれぞれが地図に書き込み、終了後に集まって話し合います。全員の情報を1枚の図面にまとめて記録に残します。

ステップ

2

目標を決め、実現に向けて活動を計画する!

①目指したいまちなかの姿、②実現のための活動、③最初に始めることを計画します。最初から詳細な部分まで決まっていなくてもかまいません。計画はまちづくりを実践しながら、更新していきましょう。

POINT まちづくりに関する活動の数が多くなると全体が把握しにくくなります。各活動の実施内容、実施時期、予算、担当者など記した、**全体プログラム**(計画書)をつくるのがお勧め。余り細かいことまで記載せず、全体像を分かりやすくします。

実施内容	スケジュール	予算	担当

ステップ

3

取り組む体制をつくる!

携わる人たちの体制が重要です。活動に合わせ必要な仲間を集めてチームをつくります。建築やグラフィックデザイン、事務、料理、力仕事など得意分野を持つ人に声をかけましょう。気兼ねなく相談できる専門家も必要です。

POINT 体制をつくる際には、まちに関わっている人たちの考え方と**関係性を把握**しておきます。まちに影響のある団体や個人について相互の関係性は、しっかり整理を。そのうえで、自分たちのグループとも良い関係をつくります。

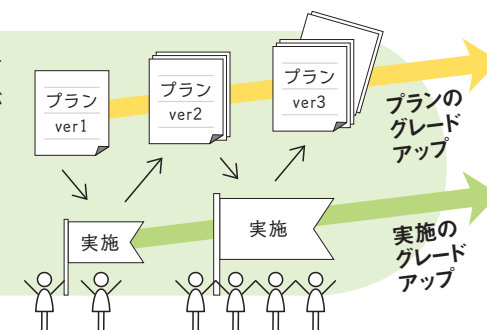
ステップ

4

とにかく実践する!

小さな失敗を恐れず実践しましょう。“石橋を叩いて”何もしないより、まずは始めることが重要です。小さな活動を、徐々に大きくしていく気持ちで取り組みましょう。実践を続けるにつれ、まちづくりの輪も広がっていきます。

POINT 最初から大きなことはできません。計画を固定するのではなく、実践しながら計画を拡充し、それに沿って実践しさらに活動充実させていく。そのような**実践型プランニング**が地域主体のまちづくりには合っています。



伝統と現代がふれあう粋なまち神楽坂

新宿区神楽坂は、住・商・歴史・文化の調和がある賑わいのまちとして知られるようになりました。

まちづくりが本格化したのは1990年代初期。それ以来住民や商業者、NPOなど地域主体で、新宿区と協調しながら多様な活動を展開しています。神楽坂まちづくり憲章、まちづくり協定、街なみ環境整備、地区計画、屋外広告物ガイドラインなどが次々と導入されました。同時に「神楽坂まつり(商店会主催)」、まちの文化祭である「まち飛びフェスタ(実行委員会主催)」、伝統芸能が繰り広げられる「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり(アーツカウンシル東京・NPO粋なまちづくり倶楽部主催)」など、



伝統的な木造建築が残る路地界限。現行法規では再建が難しい

まちの文化を楽しめる様々なイベントが年間通して実施され、多くのボランティアが参加しています。

神楽坂のまちづくりの特徴は、地域の価値の保全・強化・継承を目標に地域主体で継続的に取り組んでいることで、多くの団体や個人が関わり、それぞれの神楽坂らしさを追及しています。一方、花柳界に育まれてきた伝統的路地界限の保全継承には法的・経済的な問題があり、地区の分断が懸念される都市計画道路事業も進められています。まちの価値のより強い共有化と、それを具現化するため地域主体の発展的な活動が不可欠です。

(NPO粋なまちづくり倶楽部 鈴木俊治)



多くの人たちがまちを楽しむ「坂にお絵かき」。まち飛びフェスタの一企画

鹿島田 DAYS が取り組む“つながり”づくり

鹿島田 DAYS は、“つながる”をテーマにしたコワーキングカフェ。JR南武線鹿島田駅(川崎市)の駅前広場に隣接するこの場所をエリアマネジメント組織がまちの拠点にしたいと動き始めたのが、2018年4月。そこから、地元住民や商店主、事業者たちと店舗のコンセプトづくり、ペンキ塗りや家具製作などの改修作業を自分たちの手で行い、同年11月にオープンしました。

この施設の最大の特徴は、毎週木曜日の夜に開催している「鹿島田 de トーク」。毎回日替わりでスピーカーを招いて、仕事や趣味の話、あるいはまちでやってみたい取り組みなど、自由なテーマで話題提供してもらい、それを着に参



「鹿島田 DAYS コワーキングカフェ」の外観

加者同士で語り合うゆるい交流イベントです。

まちの拠点施設で行うプログラムは、「規模」ではなく「頻度」が重要だと考えます。気軽に参加できるイベントを定期的に行うことで、プログラムを楽しみつつも、自らまちに関わりたいと思う人たちが自然に集まり、人々のつながり(社会関係資本)が形成されていきます。(シグマ開発計画研究所 山本大地)



地域の人たちで行ったペンキ塗りの様子



毎週開催している「鹿島田 de トーク」の様子

Q & A

Q1 商店振興とまちなかの活性化の違いは？

A 商店会や商工会議所は個々の店舗をよくする商店振興を実施しています。一方、まちなかの活性化は誰もが行きたく魅力あるエリアづくりがポイントです。相乗効果でまちは良くなっていきます。

Q2 地域の組織はどのようにつくればいい？

A まちづくりは“2階建て”です。自治会や商店会が主導する義務的な活動に加えて、有志グループが地域を盛り上げる活動を受け入れ、2階建てにすることが有効です。

自主的な活動：有志団体等で実施

地域のために必要な義務的な活動：住民の総力で実施

Q3 まちづくりに若い人を呼び込むためには？

A 若い人は年配の人に指図されるのを嫌がります。ある地域では、アイデアや活動は若い人、責任は長老といった役割で進めたところ、良い体制ができました。若い人が地域に合う体制を考えてください。

Q4 まちづくりの資金はどのように集めるの？

A 市民活動へ助成する自治体が多いですね。近年、クラウドファンディング（インターネットで資金を集める方法）も使われています。まず、自治体へ相談することをお勧めします。

Q5 自分たちに合ったまちづくりを探すには？

A 他地域での事例が参考になります。日本都市計画家協会は「地域主体のまちづくり参考書」を公開しているので、これを参考に考えてみてください。 https://www.almec.co.jp/profile/pdf/text_PCD.pdf

「まちなかの活性化」に取り組む方々へエール！

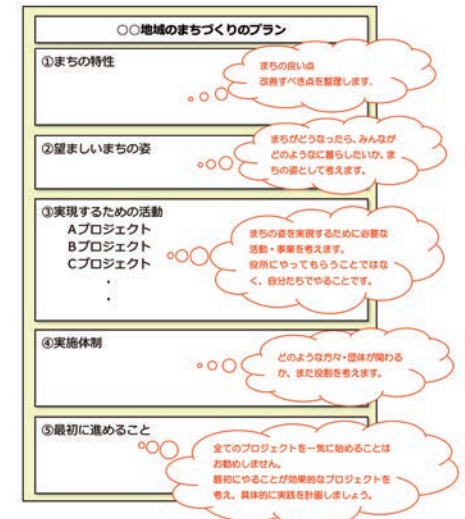
まちの機能（商業施設、娯楽施設、公共施設など）の郊外化が進んだ時代がありました。それによって、歩く人は少なく、空き店舗が増え、まちなかは寂しくなりました。お祭りやイベントも盛り上がりず、一体まちの中心はどこなのか分からなくなりました。

近年、まちなかは冊子の冒頭にも書いたように買物をするだけではなく、誰もが集まれる場、憩う場、交流や創造の場として見直されつつあります。これを読んでいるあなたは、もうそのことに気づいているかもしれませんね。

まずは自分なりに、気軽にまちづくりのプランシートをつくってみませんか？それが第1歩になり、まちづくりが進むかもしれません。



まちなかでみんなでストレッチ
神奈川県平塚市のまちなかで。みんなで協力して賑わいをつくり上げてきました



まちづくりのプランシート

発行：認定NPO法人日本都市計画家協会
企画：三谷繭子 内山征
編集：介川亜紀
デザイン：mio
イラスト：山川才綾
執筆：内山征

※当冊子は平成31年度民間まちづくり活動促進事業の補助金を活用して作成したものです